

# 「えのくま日記」六十二号

平成二十八年十二月 ～ 平成二十九年二月

「豆まき集会」

梶間 菜摘（年長なきさ組担任）日記

二月三日の節分の日、幼稚園で『豆まき集会』を行いました。節分の由来について話したり、各学年で製作した鬼や、杵を紹介したあと、豆まきの歌を歌いました。年少さんは鬼の帽子、年中さんは鬼の杵、年長さんは大きな鬼の絵を描きました。みんなで年長さんが描いた大きな鬼に向かって豆まきをして楽しんでいると、突然鬼が登場！怖くて泣いてしまう子どもたちもいましたが、みんな力で力を合わせ、「鬼はそとー！福はうちー！」と大きな声で鬼を退治しました。鬼が逃げて行った後、幼稚園に福の神様が春の訪れと、幸せを運んで来てくれました。集会の後は、みんなで節分豆を食べて自分の心の中の悪い鬼も退治しました。

（二月三日）



「初めてのお誕生日会」

佐藤 望（年少はな組保護者） 日記

息子は「誕生日会、いつ？まだかなあ」と、自分のお誕生日会をとても楽しみにしていました。

香里先生に抱っこされ、嬉しそうな顔でお友達や先生方に、お祝いして頂いている姿を見てホッとしました。帰り際、園長先生より「チューリップの球根が芽を出したんですよ」と息子の鉢を見せて頂きました。小さな芽を見てみると、息子の産まれた日の事を思い出し、思わずDVDを引っ張り出してきて見てしまいました。芽を出したばかりの球根と、また今からの子どもたちの成長がとても楽しみです。

（十二月十九日）

「息子なりのこたえ」

羽根 貴子（年長なぎさ組保護者） 日記

年中に引き続き、誕生会に参加させていただきました。昨年は「仮面ライダーゴーストになる」と答えていた息子が、今年は何と答えるか楽しみにしていました。

息子は、年長になってから毎月の誕生会で友達発表を聞いて、職業ということを考えるようになったようで、時々「あれは何をしているの？」「何ていう仕事」と尋ねてくるようになりました。特にテレビ番組のビフォーアフターを見ている時に聞かれることが多く、興味があるのだと思い、建築士や大工等、教えておきました。当日、先生に抱かれ「お家を作る人」と答えていました。自分なりに考えて発表した息子のこたえを聞き、一つに決められなかったのか、職業の名前はまだまだ難しかったのかなと感じました。これから、夢に向かって頑張って欲しいと思います。

（十二月十九日）



「サンタさんへの贈り物」

サンタ日記

未就園児さんのクリスマス会に、今年もサンタ役で出演しました。園長室から園児に気付かれないよう2Fホールを目指しましたが、すぐに見つかり「園長先生だ！」と見破られました。それでもあどけない未就園児さんは、サンタの登場を、とても喜んでくれました。嬉しそうな輝く瞳の子どもたち一人ひとりにケーキをプレゼントしました。

派手な真っ赤なサンタの衣装と白ひげを園長室ではずして、年少さんのクラスを覗くと、年少さんたちが大掃除の最中でした。部屋の椅子やブロック等をテラスに運び、全員で拭き掃除をしていました。年少さんの、こうした姿を見るのは初めてで、思わず「年少さん、すごいぞ、大マルだ！ 年中さんかと思つたよ」と伝えました。思いがけず子どもたちから嬉しい贈り物をいただいた気分になりました。

（十二月二十一日）

「クリスマス えのっこスペシャル」

神品 小百合（年長ほし組保護者） 日記

えのっこスペシャルへの参加は二回目でした。一学期のスペシャルの時も、皆さん熱い想いで参加されると感じましたが、更に熱が入っているように感じました。今回のお話は「おおきな かぶ」。準備をしていて、ママ達皆が「子どもたちの喜ぶ顔が見たい」という同じ思いに向って進んでいました。

どうしたら笑ってくれるかな？どうしたら一緒に楽しめるかな？と準備から、直前のリハーサルまで常に皆が考えていました。去年はこうだった。その前はこうだったと、経験者の方々のご意見も頼もしく、また、こうやって何度も参加したくなるような会なのだなと思えました。当日は、子どもたちも一緒に掛け声をしてくれて、たくさん笑ってくれ、私達も楽しむことができました。会が終わって、皆が集まった時、リーダーさんの「大成功だったと思います」の言葉に皆がうなずき笑顔が出ました。下の子もいるので、またの機会には是非参加したいと思いました。

（十二月二十二日）

「えのっこクラブ クリスマススペシャル」原井祐子（年長つき・年少ゆき組保護者）日記

四月に転入し、えのっこクラブに参加して子ども達と関われる事がとても楽しいです。しかし、まさか大人になって劇に出るとは、正直、思っていませんでした。でも折角やるならと、思い切って劇「おおきな かぶ」の「おじいさん役」をやりました。情けないことに心臓がバクバクでしたが、子ども達が楽しそうに見てくれました。

劇には「おじいさん」や「おばあさん」が登場しましたが、「えのくま幼稚園生の孫」「犬の名犬チーズ」「猫のキティちゃん」「ネズミのピカチュウ」の突然の登場に、子ども達は戸惑いいつも大盛り上がりでした。その後、園長先生や小さなお友達のリオンも登場し、とても楽しんでくれて大成功でした。我が家の年長のお姉ちゃんは「ママがおじいさん！」とお友達に話していたようですが、年少の弟は「ママどこにいたの？」と言っていました。麦藁帽子と白鬚じゃわからなかったみたいです。それくらい劇に入り込んで見てくれたんですね。子ども達が楽しんでくれて、劇をやって本当に良かったです。（十二月二十二日）

### 「終業式・クリスマス会二話」

園長日記

☆一話「身長10cm伸びた、体重は6kg増」

終業式の朝、職員朝礼で先生達に「子どもたちは、四月から随分成長し遅しくなっているけど、平均してどのくらい大きくなっているのかな」と尋ねました。答えは年少平均で身長3〜4cm、体重2〜3kg増、年中平均で身長2〜3cm、体重1〜2kg増、年長平均で身長4〜5cm、体重2〜3kg増とのことでした。年長さんは年少入園時に比べると身長で10cm、体重は6kg程の増となっています。心も身体も大きく育っていることを、終業式の中也伝えました。



☆二話「歌の上手なサンタさん」

終業式のあった2Fホールから記念館に会場を変えて、クリスマス会が開かれました。今年のサンタさんは学園本部の石井雅晴先生でした。大変歌の上手なサンタさんで「赤鼻のトナカイさん」や先生達と一緒に「ジャングルベル」も歌ってくれて、子どもたちに大人気となりました。数日前までのサンタは園長だと見破っていた子どもたちは、園長の横に別のサンタさんがいるのを随分怪訝そうに見ていました。「園長先生がサンタさんじゃないのが分かったかい」と少しだけ挑発気味に伝えました。（十二月二十二日）

### 「がんばってる会」

松本 美香（年中ことり組担任）日記

今春、幼稚園を卒園した1年生のお友だちが集まって『がんばってる会』を行いました。集まったお友だちは、何と74名！人数の多さに驚きましたが、とても嬉しかったです！ホールでは、幼稚園の頃を思い出し、歌をうたったり、今、頑張っている事を発表しました。「歌えるかなあ？」と心配していたお友だちも、大きな声で歌えていて素敵な歌声に思わず涙が出そうになるくらいでした。1年生になると、発表が上手になっていて、幼稚園の時とは違うなあと改めて感じました。その後は、各クラスの思い出発表をしてから、ミニタイムカプセルを開け、年長さんの頃に書いた手紙を読みました。今とは違った、たどたどしい字を見て「なんて書いてるか分からん：」とちよっと恥ずかしい様子の子どもたちでした。とても短い時間ではありましたが、久しぶりに幼稚園のお友だちや先生たちに会って楽しい時間を過ごす事が出来ました。（十二月二十六日）

「恵先生が来てくれたよ」

園長日記



冬休みの恒例行事「がんばってる会」には、今年卒園した九十二名の園児のうち七十四名の子ども達が参加してくれました。過去最多となる数で、園庭でのドッジボールや2Fホー

ルでの触れ合いは大賑わいとなりました。

この会に、長崎県平戸市から旧つき組担任の山田 恵先生が来てくれました。早朝六時に出発し、自家用車で四時間かかったとのことでした。恵先生の登場は、子ども達や職員には驚きで、みんな喜びました。「がんばってる会」の開会のあいさつの中で、旧つき組の子ども達や恵先生に二月の発表会での劇「ジュゲム」をリクエストしました。すると子どもたちは嬉しそうに頷いて一斉に大声で恵先生と落語の「ジュゲム」を始めました。「ジュゲム ジュゲム、ごこうのすりきれ、(以下延々)・・・ポンポコピーの長久命の長介！」

(十二月二十六日)



園長日記

「仕事始め」

お正月休みに自宅で静かにくつろぐ事は、今年も無理でした。長崎より帰省した息子の孫は、年長さん(男)と年少さん(女)の元気で可愛い二人でした。「ジイジ あそぼー」と誘惑され孫と触れ合うものの、心の中の「えのくま幼稚園のえんちよう先生気分」は、なかなか抜けきれず、話しかける言葉や口調が、時折、園長になっていました。「良い子でいるんだぞ」「お兄ちゃんは年長さんだぞ、年少さんに優しくしなければダメだぞ」

そんな正月三が日を終え、今日はいよいよ「仕事始め」。園児のいない静かな園舎に全ての職員が集まり、新学期の準備が始まりました。外は穏やかで暖かい気持ち良い青空が広がっています。今年も、子どもたちが事故なく明るく逞しく育って欲しいと願っています。

(平成二十九年一月四日)

「あけまして おめでどうございます」 浅野 悦子(預かり保育担当) 延長保育日誌より

今日から「にこにこくらぶ」の始まりです。子ども達も新年のご挨拶「あけまして おめでどうございます」を大きな声で元気いっぱい 言ってくれました。

上手にご挨拶している姿を見て、皆の成長にとても驚き、嬉しかったです。預かり一日目は、利用者も少なく二十四名でした。でも少ない人数でも子ども達は、園庭でドッジボールやフラフープ、自転車、砂場で体をいっぱい動かして楽しそうに遊んでいました。鼻水が出る子が何人かいるので、体調の変化など気を付けていきたいと思えます。 (一月四日)

「負けたことが悔しくて」

霧村 智子(年中そら組保護者 広報委員) 日記

二学期の保育参観(十二月十三日)では、ふざけてなのか恥ずかしいのか、ほとんど何もせず私の側に来て抱っこを求めていた息子でした。

一学期は、しっかり出来ていたのに、その日の気分なのか・・・少し残念にも思ってしまった。でも、家に帰ると参観の時に習った絵合わせの話を言い出したので「どうして、しなかったの?」と聞くと「恥かしいのと、負けてしまったから」と話してくれました。負けたことが悔しかったらしく、それはそれで成長しているなど感じる事が出来ました。三学期の保育参観では、どんな姿を見せてくれるんだろうと、今からとても楽しみです。

(二月五日)



園長日記

「驚きの始業式」

今年の三学期始業式は連休を挟み、例年に比べると数日遅れとなりました。そのため、集合写真の撮影、始業式、鏡開きの三つの行事が午前中に集中しました。

グラウンドでの学年毎の集合写真の撮影を終え、始業式を行うため園長室から2Fホールに向かう階段を上りました。ホールの戸を開けて驚きました。年長さんと年中さんが全員、静かにホールに座っていました。階段を上る時には、物音一つしなかつたので、まさか子ども

も達が座って待ってくれているとは思ってもいず「想定外」の出来事でした。嬉しくなつて「すごいぞ 大マルだ!」と褒めました。子どもを褒める時は、ある程度の心積もりがある場合が多いのですが、今回は全く「想定外」の「大マル」でした。全体指導にあたっていた祥子先生が「とても良い態度です。年少さん達のお手本になるよう頑張つてね」と伝えると、子ども達は、とても嬉しそうな笑顔で頷きました。

(一月十日)



「敗者の弁」

二宮 博美(年長なぎさ組保護者) 日記

毎年恒例の親子なわとび大会。お恥ずかしい話ですが、大人の私が毎回並々ならぬ闘志を燃やし挑んでいます。格好から負けまいと全身ジャージという意気込み十分で臨みました。この後、この服装のままママ友とランチに行く予定であるのにも関わらず・・です。優勝への強烈な気合いの為か、直前の朝の会の保育参観など上の空でした。

けれど蓋を開けると、ああ無情。気持ちに体が付いて行かず、あと一步というところで脱落してしまい、あえなく夢破れました。あくあ、寒さに負けず、ちゃんとコツコツ練習すれば良かったな。

本来、主役であるべき息子は、私に「ママ、めっちゃ惜しかったなあ。でも頑張ったけん、いいんで!」と、大人な対応をしてくれました。そんな息子は、三年連続の金メダル。やったね、おめでとう!(いいなあ)

(二月十二日)

☆親子でチャンピオンを目指した二宮さんに投稿をお願いしました。

「二度目の縄跳び大会」

高浦 愛 (年長ほし組保護者) 日記

昨年、一回跳ぶ事も出来たり出来なかつたりと、縄跳びがちよつと苦手なようだった娘。家でちゃんと練習させてあげれば良かったと後悔したもの、結局、今年も冬休みは公園で一度跳んだだけでした。

それでも、縄跳び大会では連続で数回跳び、引っかかっても素早く跳び直し、頑張っている姿に感激しました。回数も昨年の記録を大きく更新することができました。子どもの成長を実感できる行事は素敵だなと思えました。

(二月十二日)

☆ほし組保護者縄跳びチャンピオンの高浦さんに投稿をお願いしました。

「お土産のダイコンさん」



えのくまファームの老農夫日記

年長さんが、昨年十月三日に種まきして育てたダイコンさんの収穫を行いました。午前中年長さんの「親子なわとび大会」が始まる前に、親子で「えのくまファーム」を訪れて、収穫前の、立派に育ったダイコン畑を見てもらいました。

年長さんにとっては、えのくま幼稚園での最後の野菜の収穫でした。大きく育ったダイコンさんを、同じく大きく成長した年長さん達が苦もなく引き抜きました。一キロ以上の大物も次々に引き抜かれ大歓声が上がりました。畑が砂土のため、水で洗ったように白いダイコンさん達は緑の葉が付いたまま、担任の先生達が用意した袋に入れられて最愛の人達へのお土産となりました。年長さんが多く乗る三時のバスは、ダイコンさんで溢れていました。

卒園の日がまた一日、近づきました。

(一月十二日)

「三週間で縄跳び急成長」

佐藤 琢也(年中そら組保護者) 日記

去る十二月二十二日、「チャレンジカードに百回の欄があるから」と言って、娘は縄跳びを見せてくれたのですが、その日は三回しか跳べませんでした。スマホのムービーを使いながら一緒に反省しました。翌日、三十一回跳べました。十二月二十五日に七十一回に増えまし

た。そして一月十日、ついに百回を超え、チャレンジカードにハンコをもらったそうです。本当かな、と疑っていましたが、縄跳び大会当日、パパとママの前で見事に百五回、跳んでみせてくれました。短期間でも大きな成長。子どもの頃から、いろいろなチャレンジして欲しいと思いますし、出来る限り、そのチャレンジを手助けし続けたいなど、今回の縄跳び大会を通じて感じました。

(一月十三日)

☆親子でそら組チャンピオンの佐藤さんに投稿をお願いしました。

「ダイエットして挑んだ親子なわとび大会」

安東 麻由 (年中ことり組保護者) 日記

毎年、お正月に今年目標を立てているのですが、子どもは、その一つに縄跳び大会優勝を掲げていました。この冬休みは、縄跳び板と一緒にづくり、諦めるな！頑張り！と応援しながら練習していました。

しかし、私が言っただけでばかりだったのが気に食わなかったのか「ママはデブだから、できんやろー」と言ってきたので「ほんならダイエットするわ」と、ダイエットへのスイッチを入れました。縄跳び大会の本番、子どもは年少さんの時より、はるかに上達しており、優勝はできなかったけれど良く頑張りました。子どもの頑張りを見て、子どもにあげただけ言ってきたからと思い、何とか最後まで跳び続けることができました。子どもの成長を感じた、とても良い時間でした。ありがとうございました。体は・昨年より軽かったです。(笑)

(二月十三日)

☆ことり組保護者縄跳びチャンピオンの安東さんに投稿をお願いしました。



園長日記

「年中さんの涙」

年中さんで泣く子は余り見かけなくなりましたが、「年中、親子なわとび大会」が行われた本日は、久しぶりに泣く子を多く見かけました。

泣いている子の大半は男の子でした。ママが傍にいと、幼稚園での普段の気持ち切れて最愛の人に甘えたり、駄々をこねていました。「年中さんが、泣いているぞ、おかしいよ」と伝えると、少しバツの悪そうな顔をしていましたが、それでもママの魅力には打ち勝てないようでした。女の子で泣いている子は数人でしたが、激しくママの腕の中で泣きじゃくっている子が二人いたので、お母さんに訳を尋ねると「なわとびで一位になれず、それぞれ二位と三位になったのが悔しくて泣いています。」とのことでした。年中さんの、いろんな涙を見ました。それにしても二人の女の子は、大したものですよ。

(二月十三日)

「三学期」

武生 香里 (年少はな組担任) 日記

一月からクラスに新しいお友だちを迎えました。子どもたちは、Aちゃんに興味津々で、積極的に声を掛けたり、園生活の仕方を教えたり、…とAちゃんを気に掛けてくれる優しい姿が多く見られました。そんな頼もしくお世話をする姿を見て、四月からの成長を改めて感じました。今年度も、一月、二月、三月の残り三カ月となりました。子どもたちと一緒に過ごせる一日、一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

(二月十六日)

「学級閉鎖」

園長日記

二月の発表会に向けて本格的な練習が始まる週始めの月曜日、気合いを入れて出勤しました。しかし、続々とインフルエンザ(疑いも含む)の欠席連絡が入りました。

欠席は年中にじ組に集中し、担任の智美先生はじめ十名程が発熱による欠席となりました。突然の感染に驚きましたが、直ぐに学級閉鎖を決め、保健所など関係機関に通知し、保護者の皆様には一斉メールでお知らせするとともに、お知らせ文書を作成し、配布いたしました。

毎年の事ですが、「インフルエンザ」は、本当に困ります。子ども達に感染しないよう配慮し、手洗い、うがいの指導とともに、部屋の換気を徹底しています。短い三学期の大事な大事な時期です。「インフルエンザ」の流行期をなんとか乗り越えたいと願っています。

(二月十六日)



「燃えた山作り」

末田 祥子 (年長ほし組担任) 日記

何があっけか分かりませんが、朝の遊び時間に「大きな山作り」が始まりました。「祥子先生も手伝って！」と声を掛けられ、砂場に行ってみるとすでに山が二つできていました。一つは、ほし組さんが作っている山。もう一つは、なぎさ組さんが作っている山。大きさを比べてみると、なぎさ組の方が大きく、菜摘先生も一緒に作っている状況：すぐさま私のやる気スイッチが入りました。仲間を増やそうと、他の遊びをしている友だちを誘う子や、「砂をかけて!」「固めて!」と指示を出す子、「次はこうしたらいいんじゃない?」と案を出す子等、自然と役割分担ができ、遊びを通して社会性や協調性が育まれているのを感じました。昼食後、壊された山を見て「一時間半もかけて作ったのに」と悔し泣きをしていたNくんでした。時間の感覚や把握ができていることに驚かされた山作りにもなりました。

(二月十八日)

「インドア派娘、がんばりました」

相賀 貴恵 (年少ゆき組保護者) 日記

娘はあまり運動が得意な方ではなく、冬休み中に一度だけ練習した縄跳びは、跳ぶというよりも、片足ずつ縄を越える、縄を回すというよりも、地面に叩き付けるという、「上手!」と言っているのか「もうちょっとだね」と言うべきか迷う跳び方でした。

娘に下手に助言したりすると、すぐやる気をなくしてしまうので、「すごい!短い時間でよくこんなに出来るようになったね!幼稚園でたくさん練習したんだね!」と褒め、縄跳び大会への意欲だけは残し、いざ当日。

娘、頑張りました。二十四回乗り越えました。もつとたくさん跳んでいた(乗り越えた)園児は大勢いましたが、インドア派娘が一生懸命、縄を地面に叩き付ける姿は、笑いと感動で一杯でした。頑張った娘にパワーをもらい、母はゆき組さんで優勝することができました。

(二月十八日)

☆ゆき組保護者縄跳びチャンピオンの相賀さんに投稿をお願いしました。

「がんばった縄跳び大会」



横山 梨紗 (年少ひかり組保護者) 日記

冬休み、「縄跳びの練習しよう」と声をかけ外に出て行く夫と我が子。すると、二分もしないうちに家に戻ってきて「跳べんかったあ」と子どもが一言。夫に聞くと、何度か声掛けをしたものの、うまく跳べずにこども自身が諦めて帰ってきてしまったとのこと。縄跳び大会で、上手く跳べるのか不安なまま、あまり練習も進まず、当日を迎えることとなった。

当日子どもは、この日をすごく楽しみにしていたのか、いつもより三十分も早く朝の準備が完了。そして跳ぶ際も、家ではほとんど跳べていなかったはずなのに、ゆっくりだけど頑張って跳び始めた姿に、両親ともビックリ!友達とにこにこ楽しそうな笑顔も印象的でした。物事をすぐ投げ出しがちなわが子の、根気よくチャレンジしている姿がすごく嬉しく思いました。来年も親子で頑張って練習して臨みたい。

(二月十八日)

☆ひかり組保護者縄跳びチャンピオンの横山さんに投稿をお願いしました。

「お友だちができたよ」

内藤 紀央 (年少ひかり組担任) 日記

三学期に入り、年少さんもお友だちとのかかわりがとても多くなってきました。ある日、

朝の自由遊びの時間に一緒に遊んでいると意外な2人が遊んでいました。いつの間に仲良くなったんだろうと思いつながら、お友だちができて嬉しさを感じていると、二人が私に何気なく教えてくれました。「朝もバス一緒でな、帰るときはな、隣に座るんで！」との内容でした。2学期までは帰りのバスでもお互いに寝ていたりであまり話している姿を見かけていなかったもので、とても驚きました。三学期に入りお互いに自分を出せるようになり、会話も増えた似た者同士で気があったのかな？と思いつながら、笑顔で私に話しかけてくる2人との会話を楽しむことができました。

(一月十九日)



園長日記

### 「たこ揚げと紙飛行機」

大寒の翌日にあたる土曜日は、寒さにインフルエンザ流行期が重なり、登園してくる子はとても少なく、やっと八十名を超える程度でした。

そのため子ども達は、園舎内やグラウンドをいつも以上に広々と使うことができました。2Fホールでビニール袋に紐をつけて凧作りをした後、園庭で思う存分走り回りながら「たこ揚げ」を楽しんでいました。楽しそうな子ども達に、紙飛行機を作って飛ばさせてみると風に乗っての宙返りや凧の間をぬつてのフライトが子ども達に一躍人気となり、年長の男の子から、多くの製作依頼がありました。六十年前に覚えた紙飛行機「えんちよう号」を十一機製作し、並んで待つてくれていた若いパイロット達に渡しました。

(二月二十一日)

### 「どーなつクラブのパパ先生」

波多野 幸子 教頭・副園長日記

いつの頃からか、幼稚園への送迎はもちろん、参観日や園の行事に見るパパの姿は、ごく日常の風景になりました。えのくま名物「パパ先生と遊ぼう」には、リピーターの方が大勢いらつしやいます。

「どーなつクラブ」も同様、一月の教室にパパの参加がありました。まわりはママばかりの中で、子どもさんと一緒にダンスや指あそびを、一生けんめい見よう見まねでやってくれました。おやつタイムには、初めて会うお隣さんと輪になってお菓子も食べました。親子がふれあう姿には、いつも心がぽつと温かくなります。子どもを知ることには、自分もその中にとび込んで体験することから始まる。ダンスを踊るかわいいパパの姿を目にして、そう思いました。

(二月二十三日)

### 「オズの魔法使い」



ニセ舞台監督日記

インフルエンザでお休みが多い年長なぎさ組で、お休みの担任の菜摘先生の代わりに劇「オズの魔法使い」の稽古に立ち会いました。

「桃太郎」や「浦島太郎」などの「日本昔話」の劇なら指導しやすいのですが、恥ずかしながら私は「オズの魔法使い」なる劇は、まったくストーリーや登場人物を知らず、大慌てで絵本を読み、なんとかかんとか間に合わせて舞台監督を務めました。セリフは大きな模造紙に役毎に書いてくれていたので、ナレーター・ライオン・魔法使い・ドロシー・かし・怪獣・きこり・犬のトト・オズ役の子ども達に、ど素人のニセ舞台監督が熱烈指導をしました。最初は声が小さく、棒読みだった役者の卵達は、二時間の特訓で名優(迷優)に育ちました。とりわけRくんの怪獣は、ど迫力でニセ舞台監督がほれ込みました。ナレーターも大きな声で話せるようになり、二月の発表会が楽しみです。

(一月二十三日)

### 「発表会に向けて」

松本 美香(年中ことり組担任) 日記

いよいよ発表会に向けての練習が本格的になり、子どもたちは毎日、劇や歌・ダンスを頑張っています。



年中さんになると少しずつ「こうしたい!」「こんなのを持たたい!」という思いが出てくるようになり、ことり組では、男の子が「ダンスは忍者やけん、手裏剣を色んなところにつけたい」という話になりました。女の子は可愛いが大好きなので、「スカートは何色がいいかな?ピンクにする?」「ポンポンは黄色かな?赤もいいよね!」と私が考えている以上に意見が出てきてビックリしました。子どもたちの希望をなるべく叶えてあげられるように私も準備を頑張りたいと思います!

(一月二十五日)

### 「体調管理」

梶間 菜摘(年長なぎさ組担任) 日記

先日、インフルエンザでお休みを頂き、子どもたちや保護者の方に「心配をおかけしました。また、なぎさ組の子どもたちの約半数がインフルエンザになり、三日間の学級閉鎖になりました。

子どもたちのいない一日はとても静かで、長く感じました。いつも子どもたちと過ごす日はあつという間で、改めて、一日一日を大切に過ごしていきたいと思いました。学級閉鎖明け、登園した子どもたちからは、「先生大丈夫やった?」「という言葉よりも、「休みの日長すぎ!」「超暇やった!」という言葉がたくさん…。「先生がインフルエンザって、だめやん」と怒られてしまいました。申し訳なさと同時に、『これでこそなぎさ組だなあ』と感じた瞬間でした。卒園まで残りわずか。今まで以上に体調管理にも気を付けながら、元氣ななぎさ組さんでいられるよう、頑張りたいと思います。

(一月二十六日)

### 「みんなの気持ちをひとつに」

小川 真里奈(年少ゆき組担任) 日記

三学期に入り、本格的に発表会に向けての練習が始まりました。表現遊びでは、動物の特徴をよくとらえて、動きや鳴き声を真似して楽しむ姿があり、同じ動物でもそれぞれ表現の仕方が違うことも感じながらなりきることができていました。

いよいよ、発表会の練習がスタートすると、思っていたよりも早く台詞を覚えている子どもたちに驚きました!様子を伺いながらの子どももいますが、少しずつ声も大きくなり、自分たちで台詞に動きを付けたりする姿もありました。そして、やはり一番上手なのは全員で言う「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声です。本当におおきなかぶを引っ張っているかのように体を動かすところも息ぴったりです!

これから本番に向けて、ゆき組さん気持ちを一つにして、「おおきなかぶ」を抜くことができるように楽しみながら進めていきたいと思います。

(一月二十七日)

### 「真里奈先生の笑顔」

園長日記



えのくま幼稚園一年目の真里奈先生は、年少ゆき組さんの担任です。可愛らしい子どもたちは、とても個性派ぞろいで、逃げ出す子、泣きわめく子、キチンと並ぶのを嫌がる子、真里奈先生にまとわりつく子、ロッカーの中に入り込む子など色々で、真里奈先生を悩ませていました。とりわけ、教室から脱走する子を追いかける真里奈先生の顔付きは・・・でした。

そんな真里奈先生に、最近、笑顔が増えました。落ち着いた様子で、心から湧き出すような笑顔です。理由は、先生に聞かずとも分かります。子どもたちが随分落ち着いてきたからです。テラスから教室を覗くと、発表会に向けて子どもたちが真剣に取り組み始めました。

「練習が長くなると集中力が切れることもあります。とても子どもたちが良くなりました。」笑顔で真里奈先生が話してくれました。

(一月二十七日)

### 「発表会へ向けて」

高橋かおる(年中わかば組担任) 日記

「わかば組の劇は、どんぐりころころのお話をするよ」と言うと、「わたし、どんぐりがい

い！」「ほく、かえるになりたい！」と、積極的に声が上がりました。

初めの頃は、台詞を覚えていないこともあつて声も小さかったのですが、練習毎に声も大きくなり自信をつけてきているようです。自分の台詞だけでなく、お友だちの台詞も覚えていて、出番を待っている間も後ろで小声を出しながら一緒に台詞を言っている姿も見られています。自分の役だけでなく、「わかば組みんなの劇」という感覚をもって、練習に参加できているんだなあと嬉しく思いました。インフルエンザや風邪等で、なかなか全員揃つての練習ができませんが、それぞれが自信を持って発表できるように進めていきたいと思つています。

(一月三十日)



「お話の世界に入り込む子どもたち」

庄 恵理奈 (年長つき組担任) 日記

発表会の練習が始まり、「三枚のおふだ」の劇の練習をしています。お話の中には、おしようさん、小僧、おばあさん、やまんば、返事をする神様、水の神様、炎の神様が登場します。つき組さんに絵本を読んだ時、ほとんどの子が「こわい・・」と言っていたお話でもあるのですが、練習に入るとスイッチが入り、役になりきるのです。「こわいよ」と言っている台詞の言い方や素振りには本当に怖そうで、一人ひとりが表現豊かに演じていて、時には笑いが起きたり、お互いを認め合う姿があります。まだまだ完璧ではありませんが、個性豊かな俳優・女優の三十名がたくさんのお客さんを前にどんな風に演じてくれるのかとつても楽しみです！

(一月三十日)

「想定外な夢」

相野 昌枝 (年少ひかり組保護者) 日記

今日は、待ちに待った初めての誕生会です。この日まで、息子と一緒に指折り数えていました。早速、誕生会が開始され、私はわくわく感で一杯でした。息子が登場すると純粋に喜んで顔を見れて、私まで嬉しくなりました。「ふうく」良かったあ。

それから息子が夢を言う番になりました。紀央先生に照れながらも抱っこされ、夢を伝えたのですが、声が小さく聞き辛かった様子で、先生方は何度も息子に聞いていました。そして「ミッキーマウス！」と言うのかと思いきや、「夢はホットモットの店員です」と・・・。今思えば、紀央先生は、本番で息子から想定外な夢を聞いたので、かなり耳を疑つたのではないかと思います。そのやり取りに、自分の息子ながら抱きしめたくなりました。紀央先生、いつも感謝です！

(一月三十日)



「幼稚園生活最後のお誕生会」

坂本 絵梨 (年長つき組保護者) 日記

今回も、元気いっぱいの子ども達にパワーをもらいながら「これで最後かあ」と、少し淋しさをかみしめていました。

今までの会では、緊張で目がうつろだったのに、今回の息子は生き生きして、これまでで一番リラックスして楽しんでいました。そんな彼の夢は「ユーチューバー」、大好きなユーチューバーがいて、その人と友達になるにはどうしたらいいか考えたり、その人から得たゲームの知識をもつてすごい勢いで実際のゲームに反映させたり、子どもの「好き」のエネルギーは、とてつもないと感じる毎日です。年少では、おまわりさん。年中では仮面ライダーゴーストだった夢が大転進ですが、これからも自分の「好き」を楽しんでいってほしいなと思えます。

(一月三十日)

「CDデッキ」

岩武 まどか (年中そら組担任) 日記

発表会の練習が始まり、子どもたちは日々、友だちと一緒に練習に取り組んでいます。そら組さんはダンスを踊るのが大好きで、登園してきてすぐに「先生！曲かえて！」と子ども

たちから声がかかります。楽しそうにダンスを踊る姿があり、とても嬉しく思います。

ある日、ダンスの曲が流れていて、他の先生が流してくれたのかな？と思っていると子どもたちが「自分たちで曲かけたんで！」と、どや顔で教えてくれました。「先生がしてるの見てるからわかったよ」「先生、このボタン間違えて押しよったな」と言われ、子どもたちの洞察力と観察力に驚きました。

(二月三十一日)



「先生早く練習したい！」

小野 智美 (年中にじ組担任) 日記

三学期が始まり、発表会やマラソン大会に向けてさあ頑張るぞ！と気合を入れた矢先、にじ組さんはインフルエンザになり、練習も他のクラスに比べ遅くなりました。大丈夫かなと心配していましたが、学級閉鎖が明けて幼稚園に来た子どもたちは「先生早く練習したい！」と口々に言い、さつそく練習を始めると嬉しそうに踊りセリフを言う姿があります。

中には恥ずかしかったのか劇の練習に参加できなかったMちゃんが、次の日にはみんなと一緒にセリフを言い、またその翌日には誰よりも大きな声で言えるなど、一步一步、確実に成長した姿を見せてくれます。ほかの子どもとどんな役になりきり、発表会の練習がとても楽しくなってきました。三学期が終わると年長さんです。いろいろな行事や経験を通して沢山良いところを認め、素敵な年長さんになるよう関わっていききたいと思います。

(二月一日)